

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を経る必要があり、令和7年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

記

1 指定概要

(1) 施設概要

- ア 名称：北九州市立千防保育所
- イ 所在地：北九州市戸畑区千防一丁目1番15号
- ウ 構造：RC造3階建の2・3階部分
- エ 規模：延床面積1,288.05㎡
- オ 入所定員：120人

(2) 指定期間

令和8年4月1日～令和13年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

- ア 名称：社会福祉法人 北九州市保育事業協会
- イ 所在地：北九州市八幡東区中央二丁目1番1号
- ウ 主な業務内容
 - ・ 保育所の経営
 - ・ 一時預かり事業の経営

2 指定の経緯

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・ 募集要項の配布開始 | 令和7年7月18日 |
| ・ 申請意向届出書の提出 | 令和7年7月14日～8月8日 |
| ・ 募集説明会の開催 | 令和7年7月27日 |
| ・ 申請書及び事業計画書の受付 | 令和7年8月18日～8月29日 |
| ・ 指定管理者検討会の開催 | 令和7年10月3日 |
| ・ 指定管理者候補を決定 | 令和7年10月 |

(1) 応募資格

- ① 法人、その他の団体であること。(個人による応募は不可)
- ② 本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③ 申請意向届出書を提出していること。(共同事業体で応募する際は、代表団体が申請意向届出書を提出していること。)

※複数の団体により構成するグループによる応募について

グループでの応募も可能です。その場合は、応募時に共同事業体を結成し、代表団体を定めていただき、上記の要件を、その代表団体に求めます。

なお、共同事業体の代表団体は、構成員中最も業務履行能力の大きい者とし、出資比率は構成員中最大でなければならないこととします。

- ④ 共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

応募件数：1 団体 社会福祉法人 北九州市保育事業協会

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会(以下「検討会」という。)を開催し、応募者から提出された事業計画書等について検討した。市は、検討会での検討結果を参考に指定管理者候補を決定した。

4 検討会構成員

[有識者(学識経験者)]

阿南 寿美子 (西南女学院大学短期大学部保育科 教授)

[有識者(北九州市子ども・子育て会議 委員)]

大久保 大助 (NPO法人 KID' s w o r k 代表)

[有識者(元公立保育所 所長)]

河崎 幸子 (北方地域子育て支援センター 所長)

[財務専門家]

小竹 エリナ (アネーラ税理士法人 公認会計士・税理士)

(五十音順)

5 選定基準等

選定基準	選定のポイント
1 指定管理者としての適性	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	○市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	○長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など	○同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ○複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
(1) 施設の設置目的の達成に向けた取り組み	○施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ○施設の利便性を高めるための実施可能な提案があるか。 ○施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足向上	○利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。 ○利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ○利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ○利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。 ○その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 指定管理料及び収入	○指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。 ○収入が最大限確保される提案であるか。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	○収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。 ○経費の配分は適切であるか。 ○積算根拠は明確であるか。 ○再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制など	○施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。 ○職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。 ○地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。
(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	○施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。 ○日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。 ○防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分に考えられているか。

選定基準		選定のポイント
	(7)社会貢献・地域貢献	<社会貢献の視点> ○労働環境の向上への取り組みが考えられているか。 ○SDGsの達成や環境への配慮に関する取り組みが考えられているか。 <地域貢献の視点> ○地域活動や地域交流などの取り組みが考えられているか。 ○地域団体や市内事業者などと連携した取り組みが考えられているか。 ○市民の雇用拡大に資する配慮が考えられているか。

【評価レベル】

評価 レベル	乗 率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配点	評価レベル				検討会 審査結果	得点
			構成員					
			A	B	C	D		
社会福祉法人 北九州市 保育事業協 会	1 指定管理者としての適性							
	(1) 施設の管理運営に対する 理念、基本方針	5	5	4	4	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政 基盤	5	4	4	4	4	4	4
	(3) 実績や経験など	5	5	4	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性							
	【有効性】							
	(1) 施設の設置目的の達成 に向けた取組み	20	4	3	4	4	4	16
	(2) 利用者の満足向上	15	4	3	5	4	4	12
	【効率性】							
	(3) 指定管理業務に係る経 費	10	4	4	5	4	4	8
	(4) 収支計画の妥当性及 び実現可能性	10	4	4	5	4	4	8
	【適正性】							
	(4) 管理運営体制など	15	4	4	5	4	4	12
	(5) 平等利用、安全対策、 危機管理体制など	15	4	3	5	4	4	12
	(6) 社会貢献・地域貢献	10	4	4	5	4	4	8
合 計		110	90	78	103	88	—	88
地元団体に対する優遇措置（5点）								93

(2) 検討会における主な意見

- ・ 法人としては、十分な保育所運営の実績を有しており、財政基盤がしっかりしていると評価できる。
- ・ 6つの保育所を運営している法人のスケールメリットを活かし、園を超えた保育士間の交流や合同研修などが行われ、資質向上を図っている。
- ・ これまでの経験を活かして、社会状況の変化と利用者のニーズに応じた対応に努めており、地域に根差した保育を実践している。
- ・ 複合施設である利点を活かし、周辺の公共施設との連携を図っており、高く評価できる。
- ・ 保育ドキュメンテーションに取り組むなど、最近の保育動向にもしっかりと対応し、保護者にわかりやすい情報提供に努めている。

(3) 検討会における検討結果

本市が求める水準を満たしており、社会福祉法人北九州市保育事業協会が指定管理者として相応しいと判断する。検討会における議論を十分に考慮し、最終決定を行うよう市に求めることとする。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、社会福祉法人北九州市保育事業協会を指定管理者候補に選定した。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・ 指定管理施設運営に必要な人的基盤や財政基盤を有している。
- ・ これまでの経験を活かして、社会状況の変化と利用者のニーズに応じた保育に努めている。
- ・ 安全対策、危機管理体制等が十分に考えられており、児童の安全等について配慮がなされている。
- ・ 複合施設である利点を活かし、地域の公共施設、福祉施設としっかりと連携し、地域に根差した保育を実践している。

8 提案額

令和 8 年度	186,246 千円（うち指定管理料 7,730 千円）
令和 9 年度	186,246 千円（うち指定管理料 7,730 千円）
令和 10 年度	186,246 千円（うち指定管理料 7,730 千円）
令和 11 年度	186,246 千円（うち指定管理料 7,730 千円）
令和 12 年度	186,246 千円（うち指定管理料 7,730 千円）

北九州市立千防保育所 指定管理者選定に関する提案概要

団体名： 社会福祉法人 北九州市保育事業協会

審査項目	
1 指定管理者としての適性について	(1) <u>施設の管理運営（指定管理業務）</u>に対する理念、基本方針 児童福祉法第 24 条に基づき、子どもの個性を最大限尊重しながら、公平に、かつ安全面に十分留意した保育を行うことで、子どもの健全育成を図る。また、地域社会との連携を充実させるとともに、地域の子育て支援の拠点としての運営を推進していく。 (2) <u>安定的な人的基盤や財政基盤</u> 6つの保育施設を運営することで、役割に適した人材の配置・育成を行うとともに、変動の少ない予算を組むことで、持続的に安定した運営を図ることを大切にしている。 また、必要に応じ種々の方法を通じて人材の確保に努めている。 (3) <u>実績や経験など</u> 昭和 49 年に千防保育所の運営受託に当たり、北九州市と北九州市保育所連盟が協力して当法人を設立して以来、長期に渡って保育事業に携わってきた。その後、北九州市の民営化事業等に協力する形で運営園を増やし、現在 6 か所の保育所(園)を運営しており、これまでの実績を基に、独自に法人内研修を実施する等積極的に人材育成にも力を入れている。これまでの経験を生かし、今後とも安定した施設運営を行うとともに、地域社会の福祉向上に貢献していきたい。
2 管理運営計画の適確性	(1) <u>施設の設置目的の達成に向けた取り組み</u> 施設の設置目的の達成に向けては、保育指針等に定められた保育計画が何より重要であると考えており、計画を立て目標を定め、達成に向けた取り組みを行いつつ、事業を展開している。 (2) <u>利用者の満足向上</u> 保育の実施にあたっては、利用者の意向を的確に把握することが重要であり、本法人では、日々の保護者とのコミュニケーションを大切にしながら、様々な工夫や方法で情報の収集・提供を行い、それらを保育に反映させていくことが重要との認識の基、子ども・利用者の側に立ったこれらの取り組みを進めることで、保護者の信頼を得ていると考えている。

	【効率性】 に関する 取組み	(1) <u>指定管理料及び収入</u> 法定されている施設型給付費・指定管理料(民間保育所運営補助金・光熱水費及び施設保守点検経費等)・利用者等利用料収入を収入としている。 (2) <u>収支計画の妥当性及び実現可能性</u> 収入に応じた予算を組み込み、また、決算を点検し、安定した運営を図るように努める。
	【適正性】 に関する 取組み	(1) <u>管理運営体制など</u> 6 施設に専任の施設長、主任保育士を配置するとともに、それらを統括する常務理事を事務局本部に配置している。 また、配置基準を満たした保育士の配置は当然のこととして、職員の資質向上に向けた法人内研修、外部研修への積極的な参加の働きかけを行っている。 (2) <u>平等利用、安全対策、危機管理体制など</u> 平等利用については、北九州市と連携しながら社会福祉施設として当然に実施している。 安全対策については、子どもの命を守り、安定した生活を提供するため、常に安全な保育環境を整えることに留意している。 危機管理体制としては、対応等の連携図や各種の危機管理マニュアル等を作成し、職場内研修等の機会をとらえ、全職員が共通認識を持ち、対応できるようにしている。 (3) <u>地域貢献・社会貢献</u> 地域貢献については、複合施設の特性を生かし、施設関係者との交流や合同で避難訓練を行う等関係の強化を図っている。 また、地域の行事への参加や地域の方々の園行事への受入れ等、地域との交流も積極的に行っている。 社会貢献については、シルバー人材センターや障害者の雇用を積極的に行っている。

提案額（千円）

令和8年度	186,246 千円	うち指定管理料 7,730 千円
令和9年度	186,246 千円	うち指定管理料 7,730 千円
令和10年度	186,246 千円	うち指定管理料 7,730 千円
令和11年度	186,246 千円	うち指定管理料 7,730 千円
令和12年度	186,246 千円	うち指定管理料 7,730 千円

北九州市立千防保育所 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令7年10月3日（金） 13:00～14:20
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎11階 112会議室
- 3 出席者 検討会構成員：阿南構成員、大久保構成員、河崎構成員、
小竹構成員 （五十音順）
事務局：子ども家庭局運営給付担当課長、給付担当係長、
担当職員
- 4 応募団体 社会福祉法人 北九州市保育事業協会

5 会議内容

○検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明

○構成員の互選により、座長を選出

○応募団体より提案概要の説明及び応募団体へのヒアリング

■構成員によるヒアリング

（構成員） 地域行事や地域の団体との連携について、忙しい中、しっかりと取り組まれているようだが、園長として今後の思いを聞かせてほしい。

（応募団体） 地域を大事にしたいというのは、職員間で共通の認識をもっている。複合施設であり、下の階に障害者施設があり、隣に高齢者施設があるのでよく行き来している。今年度は、警察、高齢者施設、保育所の三者で初めて交流がもてた。年長者の方の笑顔が園児にも伝わり、とても良い経験が出来ている。交流行事は年長児が中心となっているが、今後は4歳児にもつなげていきたい。

（構成員） 研修に対する取組について2点聞きたい。

① 法人として6園運営しているが、保育の質を向上させるために、他の園と情報共有や合同研修などの取組があるか。

② 特色として保育ドキュメンテーションに取り組んでいるということだが、その効果をどうとらえているか。

（応募団体） ①については、各園から副主任などの中堅保育士が集まって、法人の合同研修が開催されていたが、今年度は、基本に戻って各園で取り組み、来年度は、保育所間交流を計画している。また、法人内で調理員間の交流もあり、調理の形態や食事の提供方法の工夫等の

情報共有を行っている。

②については、取組自体が大変であるが、繰り返しやっていくことで、保育士の写真の撮り方や伝え方が上達してきた。保護者にとっては、保育の状況が可視化されることで、保育士の思いが伝わったり、我が子の育ちに気づいたりなどの効果が生まれている。

(構成員) ホームページを見て、給食に力を入れていると感じた。給食に関する取組についてお聞きしたい。

(応募団体) 食べることは生きることなので、食を大事にしたいという思いがある。今年度、ホームページのリニューアルを行い、食育について献立の配信など、情報を充実させた。

(構成員) 保育士の定着のための取組についてお尋ねしたい。

(応募団体) 先生たちが笑顔でないと定着は難しい。先生たちが笑顔になるには、仕事も休憩時間も楽しく過ごせること、不満については園長と主任で受け止めている。また、業務を改善して不要な事務作業を減らしたり、有休をしっかりと取得してもらったりなどの働きかけを行っている。

(構成員) 対応の難しいお子さんもいると思うが、相談事例や保護者から相談を受けて専門機関へとつないでいく具体的な事例があれば、お聞きしたい。

(応募団体) 保護者へは、少しずつ気になる部分を伝えていく。また、ビデオを活用して、保護者に普段の姿、集団の中での気になる姿を見てもらって、納得してから、専門機関につなぐようにしている。

(構成員) 法人で6園運営しているが、法人内での異動はあるか。

(応募団体) 多少の異動はあるが、保育士数が不足していることもあり、あまり積極的には出来ていない。保育の質を標準化させるためにも、人材確保が進めば、もう少し保育所間の異動を増やしたいとは考えている。

(構成員) 保育士確保の取組として、LINEによる情報発信をしているとのことだが、発信の頻度や効果のほどはどうか。

(応募団体) 今の若い方は直接電話をするのが苦手で、LINEなどの携帯の方が気軽にアクセスできるメリットがある。法人の担当者が、採用試験の情報などを毎月1回程度発信することで、問い合わせがあったり、試験を受けに来てくれたりしている。

○構成員は、応募団体からの提案概要のプレゼンテーション及び質疑応答を受けて各自得点を記入し、事務局が集計した得点を発表。その後、意見交換及び検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議を行い、検討会を終了した。

■総合的な所見内容

・法人としては、十分な保育所運営の実績を有しており、財政基盤がしっかりし

ていると評価できる。

- ・ 6つの保育所を運営している法人のスケールメリットを活かし、園を超えた保育士間の交流や合同研修などが行われ、資質向上を図っている。
- ・ これまでの経験を活かして、社会状況の変化と利用者のニーズに応じた対応に努めており、地域に根差した保育を実践している。
- ・ 複合施設である利点を活かし、周辺の公共施設との連携を図っており、高く評価できる。
- ・ 保育ドキュメンテーションに取り組むなど、最近の保育動向にもしっかり対応し、保護者にわかりやすい情報提供に努めている。

指定管理者候補の選定結果について

下記のとおり、指定管理者の「候補」が選定されました。指定管理者の指定については、地方自治法第244条の2第6項の規定により、議会の議決を経る必要があり、令和7年12月議会の議決を経た後に正式に指定することとなります。

記

1 指定概要

(1) 施設概要

- ア 名称：北九州市立ユースステーション
- イ 所在地：北九州市八幡西区黒崎三丁目15番3号 コムシティ地下1階
- ウ 建設年：平成25年4月
- エ 延床面積：1,195.48 m²
- オ 主な施設：フリースペース、学習スペース、音楽スタジオ、多目的ホール等
- カ 業務内容：施設の管理運営業務、提案業務、その他業務

(2) 指定期間

令和8年4月1日～令和13年3月31日

(3) 指定管理者候補の概要

- ア 名称：特定非営利活動法人 里山を考える会
- イ 所在地：北九州市八幡東区東田二丁目5番7号
- ウ 団体の主な業務内容
環境教育事業、コミュニティデザイン事業、グローバルコミュニケーション事業、マネジメント事業

2 指定の経緯

- | | |
|------------------|-----------------|
| ・募集要項の配布開始 | 令和7年 7月25日 |
| ・募集説明会の開催 | 令和7年 8月8日 |
| ・申請意向届出書の提出 | 令和7年 8月8日～8月22日 |
| ・申請書及び事業計画書の提出 | 令和7年 8月8日～8月29日 |
| ・指定管理者検討会（ヒアリング） | 令和7年 10月3日 |
| ・指定管理者候補を決定 | 令和7年 10月 |

(1) 応募資格

- ① 法人、その他の団体であること。（個人による応募は不可）
- ② 本社、本店又は主たる営業所、事務所等を、事故など緊急な対処を要する事態が発生した場合に迅速に対応できる場所に有するもの。
- ③ 申請意向届出書を提出していること。（共同事業体で応募する際は、代表団体が申請意向届出書を提出していること。）

※複数の団体により構成するグループによる応募について

グループでの応募も可能です。その場合は、応募時に共同事業体を結成し、代表団体を定めていただき、上記の要件を、その代表団体に求めます。

なお、共同事業体の代表団体は、構成員中最も業務履行能力の大きい者とし、出資比率は構成員中最大でなければならないこととします。

- ④ 共同事業体を構成する場合は、競争性を確保した上で、本市経済の振興と地元団体の育成を図る観点から、可能な限り地元団体を構成員とするよう努め、最低1団体は地元団体とすること。

(2) 応募状況

説明会参加：5 団体

応募件数：3 団体

- ・ 特定非営利活動法人 里山を考える会
- ・ ユースミライ北九州共同事業体
- ・ 株式会社日本施設協会

3 選定方法

指定管理者の選定に当たっては、学識経験者や専門家等による指定管理者検討会を開催し、応募団体から提出された事業計画書等について検討した。市は、検討会の検討結果を参考に指定管理者候補を決定した。

4 検討会構成員

[有識者（学識経験者）]

阿南 寿美子 （西南女学院大学短期大学部 保育科 教授）

[有識者（北九州市子ども・子育て会議 委員）]

大久保 大助 （特定非営利活動法人 KID's work 代表）

[有識者（教育関係）]

板木 俊二 （福岡県立八幡高等学校 校長）

[有識者（地域団体）]

壱岐尾 小雪 （北九州市子ども会連合会 研修委員）

[財務専門家]

小竹 エリナ （アネーラ税理士法人 公認会計士）

5 選定基準等

選定基準	選定のポイント
1 指定管理者としての適性	
(1) ユースステーションの管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	○市の当該分野における基本的な政策や計画、あるいは施設の設置目的や性格等を十分に理解した上で、それらに適合した管理運営（指定管理業務）に対する理念や基本方針を持っているか。
(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	○長期間安定的な管理運営（指定管理業務）を行っていくだけの人的基盤や財政基盤等を有しており、又は確保できる見込みがあるか。
(3) 実績や経験など	○同様、類似の業務の実績を有しており、成果を上げているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）に関する専門的知識や資格、経験を十分に有しており、熱意や意欲を持っているか。 ○複数の団体が共同して一つの応募団体となっている場合、それぞれの責任分担等が明確になっているか。
2 管理運営計画の適確性	
【有効性】	
(1) ユースステーションの設置目的の達成に向けた取組み	○施設の管理運営（指定管理業務）に係る事業計画の内容が、施設の効用を最大限に発揮し、施設の設置目的に沿った成果が得られるものであるか。 ○施設の利用者の増加や利便性を高めるための実施可能な提案があるか。 ※利用促進を目的としている施設の場合 ○施設間の有機的な連携が図られる提案があるか。 ※複数の施設を一括して管理する場合 ○施設の設置目的に応じた営業・広報活動に関する効果的な提案があるか。
(2) 利用者の満足向上	○利用者の満足が得られるよう十分に考えられているか。 ○利用者の意見を把握し、それらを反映させる仕組みを構築しているか。 ○利用者からの苦情に対する対策が十分に考えられているか。 ○利用者への情報提供が図られるよう十分に考えられているか。 ○その他サービスの質を維持・向上するための具体的な提案がなされているか。
【効率性】	
(3) 指定管理料及び収入	○指定管理業務に係る費用（指定管理料）が最小限に抑えられているか。 ○収入が最大限確保される提案であるか。 ○市に対して収益の一部を納付する提案があるか。
(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	○収支計画が妥当かつ、実現可能な提案であるか。 ○経費の配分は適切であるか。 ○積算根拠は明確であるか。 ○再委託が適切な水準で行われているか。
【適正性】	
(5) 管理運営体制など	○施設の管理責任者、管理体制が明確に示されているか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であるか。 ○施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員が必要な資格、経験などを有しているか。 ○職員の資質・能力向上を図るよう考えられているか。 ○地域の住民や関係団体等との連携や協働による事業展開が図られるものであるか。

選定基準		選定のポイント
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	○施設の利用者の個人情報保護のための対策が十分に考えられているか。 ○利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されているか。 ○日常の事故防止などの安全対策や事故発生時の対応などが十分に考えられているか。 ○防犯、防災対策や非常災害時の危機管理体制などが十分考えられているか。
	(7) 社会貢献・地域貢献	<社会貢献の視点> ○高齢者や障害者等の雇用促進が考えられているか。 ○労働環境の向上への取り組みが考えられているか。 ○SDGsの達成や環境への配慮に関する取り組みが考えられているか。 <地域貢献の視点> ○地域活動や地域交流などの取り組みが考えられているか。 ○地域団体や市内事業者などと連携した取り組みが考えられているか。 ○市民の雇用拡大に資する配慮が考えられているか。

【評価レベル】

評価レベル	乗 率	評価レベルの考え方
5	100%	特に優れている（市の要求水準を大幅に上回っている、高度な能力を有している）
4	80%	優れている（市の要求水準を上回っている、十分な能力を有している）
3	60%	普通（市の要求水準を満たしている、一応の能力を有している）
2	40%	多少不十分である（市の要求水準を下回っている、多少能力が乏しい）
1	20%	不十分である（市の要求水準を大幅に下回っている、能力が乏しい）
0	0%	劣っている（能力がほとんどなく、任せることに不安がある）

6 審査結果

(1) 評価レベル及び得点

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配 点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			検討員						
			A	B	C	D	E		
特定非営利活動法人 里山を考える会	1 指定管理者としての適性								
	(1) 管理運営（指定管理業務）に 対 する理念、基本方針	5	4	4	5	5	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	4	4	4	4	4
	(3) 実績や経験	5	5	4	4	5	5	5	5
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 設置目的の達成に向け た 取組み	30	4	4	4	4	4	4	24
	(2) 利用者の満足度向上	10	4	4	5	5	3	4	8
	【効率性】								
	(3) 管理運営（指定管理業 務）に係る経費	20	4	4	4	5	4	4	16
	(4) 収支計画の妥当性及び 実現可能性	5	4	4	4	4	4	4	4
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制	10	5	4	5	5	4	5	10
	(6) 平等利用、安全対策、 危機管理体制	10	4	4	4	5	4	4	8
	(7) 社会貢献・地域貢献	10	5	4	3	5	4	4	8
合 計		110	—	—	—	—	—	—	91
地元団体に対する優遇措置 5点（市内）									96

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配 点	評価レベル					検討会 審査結果	得点	
			検討員							
			A	B	C	D	E			
ユースミライ北九州共同事業体	1 指定管理者としての適性									
	(1) 管理運営（指定管理業務）に 対 する理念、基本方針	5	4	4	5	4	4	4	4	
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	4	4	4	4	4	
	(3) 実績や経験	5	5	4	4	4	4	4	4	
	2 管理運営計画の適確性									
	【有効性】									
	(1) 設置目的の達成に向け た取組み	30	4	4	4	3	5	4	24	
	(2) 利用者の満足度向上	10	4	4	5	4	4	4	8	
	【効率性】									
	(3) 管理運営（指定管理業 務）に係る経費	20	4	4	5	4	4	4	16	
	(4) 収支計画の妥当性及び 実現可能性	5	4	4	5	3	4	4	4	
	【適正性】									
	(5) 管理運営体制	10	4	3	4	4	4	4	8	
	(6) 平等利用、安全対策、 危機管理体制	10	4	3	3	4	4	4	8	
	(7) 社会貢献・地域貢献	10	4	4	4	4	5	4	8	
	合 計		110	—	—	—	—	—	—	88
	地元団体に対する優遇措置 5点（市内）									93

団体名	選定基準（＝審査項目） 及びポイント	配 点	評価レベル					検討会 審査結果	得点
			検討員						
			A	B	C	D	E		
株式会社 日本施設協会	1 指定管理者としての適性								
	(1) 管理運営（指定管理業務）に対する理念、基本方針	5	4	4	5	4	4	4	4
	(2) 安定的な人的基盤や財政基盤	5	4	4	5	4	4	4	4
	(3) 実績や経験	5	5	5	3	4	4	4	4
	2 管理運営計画の適確性								
	【有効性】								
	(1) 設置目的の達成に向けた取り組み	30	4	5	4	3	3	4	24
	(2) 利用者の満足度向上	10	4	4	4	4	3	4	8
	【効率性】								
	(3) 管理運営（指定管理業務）に係る経費	20	4	4	4	3	3	4	16
	(4) 収支計画の妥当性及び実現可能性	5	4	4	5	4	4	4	4
	【適正性】								
	(5) 管理運営体制	10	4	4	3	4	4	4	8
	(6) 平等利用、安全対策、危機管理体制	10	4	4	3	4	4	4	8
	(7) 社会貢献・地域貢献	10	4	4	4	4	4	4	8
合 計		110	—	—	—	—	—	—	88
地元団体に対する優遇措置 5点（市内）									93

（２）検討会における主な意見

【特定非営利活動法人里山を考える会】

- ・実績もあり、利用者の意見を参考に新しい取り組みも行っている。
- ・若者に対する支援や今後の北九州についての意欲を感じた。
- ・事業計画の内容が設置目的と一致しており、成果が得られている。
- ・学校や企業など、地域との連携ができているところが評価できる。

【ユースミライ北九州共同事業体】

- ・若者の勢いがあり、構成団体の持ち味を生かしている。
- ・運営にあたる人材が若く、様々な挑戦をしようという情熱を感じた。
- ・現代の若者支援において、「居場所」と「挑戦できる場所」の支援は大切であり、施設の設置目的に合致している。
- ・期待が持てる提案内容であったが、構成団体それぞれがやりたいことをやっていくような印象だった。第三者の評価も取り入れつつ実績を重ねてほしい。

【株式会社日本施設協会】

- ・多くの指定管理の実績があり、明確なビジョンを持っている。
- ・ユースステーションをスタジオ等の貸室事業としてとらえず、居場所としての機能を充実させようとする明確なビジョンを感じる。
- ・中高生の利用者の活動の場として、ユースステーションに様々な「部活」を組織するという提案は目新しさを感じる。

(3) 検討会における検討結果

上記の評価点及び意見を総合的に勘案し、検討会としては、特定非営利活動法人里山を考える会が指定管理者として相応しいと判断する。

7 選定結果

市は、検討会の検討結果を参考に、特定非営利活動法人里山を考える会を指定管理者候補に選定した。

(1) 選定された団体の主な提案内容

別紙「提案概要」のとおり

(2) 市における主な選定理由

- ・施設の設置目的及び若者支援の施策について理解があるとともに、同施設の管理運営に関して強い意欲が感じられる。
- ・過去5年間の施設利用者数や使用料の納付額が常に増加している。
- ・バンドバトルの開催等、新たなプログラム開発のための研究や情報収集などが積極的かつ的確であり、利用者のニーズに対応しようとする姿勢が明確である。
- ・地域・学校・企業との連携などでの実績が十分にあり信頼がおける。

8 提案額

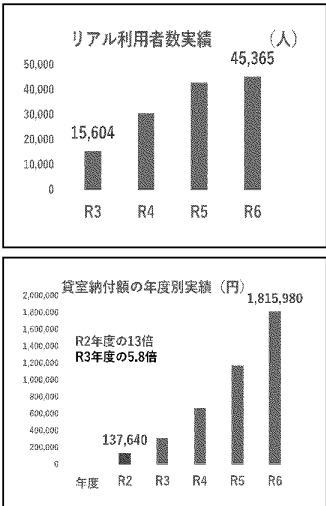
令和 8 年度	52,806 千円
令和 9 年度	52,806 千円
令和 10 年度	52,806 千円
令和 11 年度	52,806 千円
令和 12 年度	52,806 千円

提案概要

(北九州市立ユースステーション 指定管理者)

団体名:里山を考える会

1 指定管理者としての適性について

(1)施設管理運営(指定管理業務)に対する理念、基本方針																							
【理念】若者と共に進化する北九州市立ユースステーション ① 利用者に信頼され、交流や共創を生むサードプレイスの場づくり ② 利用者の将来のイメージ、選択肢となる心に届く探究学習・イベントの提供 ③ 学習、文化、交流活動を通して持続可能な社会を担う人材育成を目指します。 【基本方針】現指定管理 5 年間の運営実績を踏まえ、経験・知見等を礎にさらなる進化を図ります。安全、安心で居心地の良い場づくり、施設管理を継続するとともに、若者の自立を支援し主体的なアクションにつなげる「ステップアップステーション」の実現に向けて諸活動に取り組みます。																							
(2)安定的な人的基盤や財政基盤																							
【特定非営利活動法人 里山を考える会】 (人的基盤)「持続可能な社会の実現」をミッションとして未来を担う人材育成を行う専門集団 (財産基盤)収入 153,855 千円 純利益 2,110 千円 正味財産 51,348 千円(2024 年度)																							
(3)実績や経験など																							
① ユースステーション管理実績: R3 年度から指定管理 JV 代表団体として本施設運営管理を統括実施、 ■安全・安心で居心地の良い「サードプレイス」の場づくり ■年間 160 を超える多様で質の高いプログラム提供 (a)探究学習指導 (b)新規音楽プログラム「バンドバトル」導入 (c)独自のボランティア活動 (d)プレイスメイキング活動など) ■受付業務のデジタル化等、運営の改善・創意工夫により、 R6 年度まで入館者数(右図)、貸室利用率(および貸室料右図)、ボランティア活動登録者(R3 年度 15 人→R6 年度 153 人)、利用者満足度(95%以上)等の各主要指標において大幅な増加、改善を実現しました。 ② 関連実績:「タカミヤ環境ミュージアム」運営管理(指定管理 16 年間)、「生涯現役夢追塾」企画・運營業務(指定管理 11 年間)など、公共施設運営管理業務ならびに多様な分野、多世代にわたる人材育成業務で多数の実績を有しています。	 リアル利用者数実績 (人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>15,604</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>45,365</td> </tr> </tbody> </table> 貸室納付額の年度別実績 (円) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R2</td> <td>137,640</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>1,815,980</td> </tr> </tbody> </table> R2年度の13倍 R3年度の5.8倍	年度	実績 (人)	R3	15,604	R4		R5		R6	45,365	年度	実績 (円)	R2	137,640	R3		R4		R5		R6	1,815,980
年度	実績 (人)																						
R3	15,604																						
R4																							
R5																							
R6	45,365																						
年度	実績 (円)																						
R2	137,640																						
R3																							
R4																							
R5																							
R6	1,815,980																						

2 管理運営計画の適確性

【有効性】に関する取組み
(1)施設の設置目的の達成に向けた取組み
■利用者目標人数は、初年度:45,000 人、最終年度:47,000 人 を目指します。 (全利用者目標人数(館外イベント活動含む)は、初年度:50,000 人、最終年度:54,000 人) ■イベント・講座等は 160 件/年 の実施に取り組みます。

■ イベント企画を充実させ施設有料貸室利用を促進いたします(市に対する納付金増加につなぐ)。

上記の目標達成のため、若者と共に進化するユースステーション実現に向けて、以下の7つの重点テーマに基づくアクションを展開するとともに、利用者サイドに軸足を置いて質の高いサービスを提供、利用者の新たな自己実現、自己変化を生み出すため、可能性追求、夢の実現に向けての支援を図ります。

①「プレイスメイキング」:これまでの安全・安心で居心地の良い場づくりを基盤に、さらに信頼され、交流・共創を生むサードプレイスを拡大し構築します。

②「SDGs 探究学習」:高校生への探究学習においては SDGs アワードの設立、企業と共に学ぶ現場体験型学習、小中高生に向けては環境問題などに取り組む新カードゲーム等新たなプログラムの導入を図ります。

③「ハブ・ステーション」:探究学習を企業と繋ぎ、さらなる進化を図ることで、学生と地域と企業をつなぐハブとして、プランからアクション(地域・企業との連携実践)へ展開しキャリア支援につなぎます。

④「音楽・ダンス」:高校生のエネルギーを受け止め、夢の実現を応援する場としてバンドバトル(R5 年開始)を北九州市のメジャーイベントに押し上げ高校生や先生方の熱い思いを広く発信します。

⑤「アクティブボランティア」:自ら企画・実施する能動的ボランティア活動で独自の活動を展開します。

⑥「利用者の心に響く企画」:パネル・映像展、AI、プログラミング講座など琴線に触れる企画を展開し、施設環境の中で新たな気づきを促し、自己発見の機会を提供します。

⑦「マナーの育成」:施設の共同利用を通して、社会のルールやマナーを守る指導教育を展開します。

■ これらのアクションに基づく活動を通じて、自分を試せる「場」、自己発見の「場」、活躍の「場」として、「進学、社会、将来」にステップアップできる「ステップアップステーション」の実現を図ります。さらに若者の「夢の実現」、「地元愛の醸成」、「地元就職・定着」に繋がる支援を行い、若者の眠っている才能を引き出し不登校など減らす役割を担っていきます。

■ これまでの協働実績を基にコミュニティ内 10 施設、市内小中高、団体・企業等と共に展開します。広報活動においても高校訪問による延べ 375 校との連携実績を強化し、利用者目線で活動をマッチングさせ、本施設の認知度、ブランド化、小中高への広報誌を隔月発行するなど、集客の増加を図ります。

(2)利用者の満足度

① 毎月の施設アンケートやイベントアンケート配布、利用者が要望を記入できる「目安箱」、メッセージなどを書き込むボード「ユースの自由帳」、利用者による運営委員会の開催などを活用し、意見収集と改善を見える化を図ることで利用者満足度目標100%を目指します。

② 高校訪問・校長訪問:活動内容を学校へ幅広く広報し高校生、学校側の要望とマッチングさせる。

新たな探究学習を学校に積極的展開:「机上のプランから企業との連携による実践アクション」を探究学習に取り入れ、精通したスタッフで充実させていきます。施設内でのクラブ化も実施します。

③ 音楽・ダンスで高校生と地域をつなぐ場づくり:高校生のエネルギーを受け止める場、自己発見を促し、社会性・自立性・主体性を育む場として、成功体験の機会を提供します。

【効率性】に関する取組み

(1)指定管理料及び収入

■ DX 化による管理運営の効率化推進

これまでに構築した受付・予約業務デジタル化を基盤に、データの有効活用等さらなる DX 化を推進します。具体的には、①ネット予約システム拡充による利用者負担軽減、②紙ベース(アナログ)受付対応からバ

ーコード読み取り式システムを導入改善(電子化)への移行と、取得データの情報分析による効率的な要員配置対応、サービス提供、営業/広報活動での効果的な活用を通じてコスト削減を図ります。

■事務、プログラム企画機能等を一部本部で担うことで経費を削減、現場重視の職員配置を行います。

■音楽専門スタッフの配置運営、探究学習専門スタッフを配置し高校と連携(実績延べ 375 校訪問)と企業/大学連携(実績延べ 93 団体)のネットワークをさらに拡大、■多くの関係先との協働で費用を低減し事業展開、■広報資料の内製化で年間 160 を超えるイベントに対応し広報コスト削減を行います。そのイベント効果で集客増と有料貸室利用者増を図ります。

(2)収支計画の妥当性及び実現可能性

これまでの本施設の運営実績で得た知見・ノウハウに基づき、実現可能な収支計画を策定しました。今後の諸経費の変動等には、①DX化による運営効率化と要員配置適正化、②設備管理・広報資料制作等業務の内製化、③運営委員会による PDCA サイクル確立等を推進することでコスト削減を推進し、施設運営、提供サービスの質の維持向上を図りながら、効率的かつ適正な管理運営を実施します。

【適正性】に関する取組み

(1)管理運営体制など

■所長、副所長、運営スタッフ 3 名を配します。それぞれの役割については、専門性、豊富な経験を有するスタッフを確保します。特に、総合的なプロデュース 1 名、音楽指導専門 1 名、探究指導専門 1 名、システム構築専門 1 名、海外イベント指導 1 名など成果に繋がる人材確保と配置を行います。DX 化された管理情報を活用し、無駄のない効率的スタッフ配置、運用を行います。また、外部の有識者、各団体代表から構成するアドバイザーリー委員会を設置し助言、指導を仰ぎます。

(2)平等利用、安全対策、危機管理体制など

■これまでに構築した①個人情報、②ハラスメント防止、③文書管理、④経理、⑤物品購入、⑥就業規則、⑦給与など規定・マニュアルを適切に更新します。また、■安全管理、危機管理/、防犯防災マニュアルの整備管理実行の徹底、■施設内のバリアフリー化の改善、■パンデミック対策の徹底、■危機管理研修を最優先に、人権研修、コミュニケーション研修などを実施し、資質向上と管理・運営の実効性を確保します。

(3)地域貢献・社会貢献

コムシティ内 10 施設、地域・学校・企業の21団体と協働・連携で地域活性化・社会活動に貢献します。

■①探究学習、②音楽活動、③アート活動、④職場体験活動⑤プログラミング、AI 活動、⑥ボランティア活動、⑦街おこし活動、⑧企業、団体、介護施設、障がい者施設、市民センター等との連携を拡充します。

■活動を通して、若者のキャリア支援、夢の実現、地域活動への参画、多世代交流支援で若者自らの可能性追求など人材育成を目指す。あわせて施設若手スタッフ、アルバイト大学生の若手人材育成も行います。

提案額 (千円)

令和 8 年度	52,806 千円
令和 9 年度	52,806 千円
令和 10 年度	52,806 千円
令和 11 年度	52,806 千円
令和 12 年度	52,806 千円

北九州市立ユースステーション指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和7年10月3日（金） 15:25～17:25
- 2 場 所 北九州市役所 11階 121会議室
（北九州市小倉北区城内1番1号）
- 3 出席者 検討員：阿南検討員、小竹検討員、大久保検討員、板木検討員、
壱岐尾検討員
事務局：子ども家庭局こども若者成育課長、管理係長、担当職員

4 会議内容

- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項等について事務局より説明
- 検討員の互選により、座長の選出（座長：阿南検討員）
- 提案概要に関して応募団体よりヒアリング

【特定非営利活動法人 里山を考える会】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

（検討員） 「探求事業」があるが、具体的にどのようなことを行っているか。

（応募団体） 高校の授業で探求事業というものがあるが、問題解決のプラン作成までで終わっている。私どもは、高校と企業をつないで、企業のテーマをどう解決していくかが一番大事なところだと考えている。例えば、最近の事例を一つあげると、企業から乗降客の減少に歯止めをかける施策の提案という課題をいただいた。そこで、高校の生徒の通学コースになっているということもあり、課題解決の提案を行っている。このように企業の協力を得ながら、学生の提案が実社会の問題解決につながるという経験を提供している。

（検討員） 「居場所」という機能についてどのようにとらえているか。

（応募団体） 利用者と主に接する受付窓口のスタッフの年齢が近いと、いろいろなことを話している。話せる場所であるということが、こどもたちが居場所として非常に使いやすいということであると考えている。それが、口コミで広がった結果が施設利用者4万5000人を超えた実績に繋がっていると思う。

（検討員） 令和3年から指定管理者となったが、コロナの影響がありながらも集客が倍以上となっている。どの段階で新しい取り組みを採用されたか。

（応募団体） 指定管理者受託当初は、施設利用者数を増やすために、イベントで利用者を増やそうとしていた。しかし、利用者アンケートで「自宅で勉強できる場所が無いから、ユースステーションで勉強したい」という意見が多くあったので、指定管理期間を1年経過した時点で、イベントで施設利用者数を増やすのではなく、こどもたちの居場所となろうと切り換えた。

(検 討 員) 探求活動について、今後の事業の方向性等があれば伺いたい。

(応募団体) 高校が、個別の企業・地域団体にコンタクトを取ることは、なかなか難しい。逆に企業等もしかりであるため、ユースステーションが高校と企業等を繋ぐハブとなりたいと考えている。

(検 討 員) 構成団体が2から1になったが、運営面での課題はあるか。

(応募団体) 今期は、特定非営利活動法人里山を考える会と一般社団法人進路・指導キャリア教育支援機構との比率が9対1という格好で共同事業体を構成した。

進路・指導キャリア教育支援機構は、探求学習等を一部担当した。同機構の活動拠点が北九州でなくなってしまうということと、事業領域が別のところを始めることとなったため、今期限りで共同事業体を解消することとした。

一方、里山を考える会も学校訪問を行う中で、探求学習についての知見・経験をつむことができしており、当会のネットワークをうまく使って、高校と企業との連携ができるという確信を得ている。

(検 討 員) アンケートは記入式のようなが、匿名性はどのように考えているか。

記入式だと、否定的な意見を出したい時書きにくい部分もあると思うが、そういった否定的な意見のすくい上げはどういうふうに行っているか。

(応募団体) アンケートは匿名である。また、ポストの中に入れてもらうため、誰が記載したものかは分からない。記入式としているのは、回収率をとっているためである。ネットでのアンケートの場合、回収率が取れないため採用していない。

ユースステーションではアンケートについての回答掲示板を設けており、そこには、要望、否定的な意見まで含めて掲示している。種々の条件により対応できないものについては、その理由を回答しており、利用者に理解をいただいている。

【ユースミライ北九州共同事業体】

・ 提案概要の説明

・ 質疑応答

(検 討 員) カフェを将来併設していくことで、昼間の時間にコムシティを利用する社会人の方や高齢者の方がおりてきて利用するケースが想定されますが、その方が長居した時の対応策は何か考えているか。

(応募団体) カフェを2店舗やっているが、基本的にはお客様のニーズに合わせて接客というのが一番大事だとは思いますが、きれいな食器でおいしいものを食べることで、お客様の満足度は、一旦80%ぐらいとなる。その時にお声掛けすると、結構スムーズに改善できる。

地域連携について、例えば、商店街と共同してイベントを行う等はどのよ

(検 討 員) うにして開拓してというイメージがあるか伺いたい。

地域連携団体、NPO、大学、起業家、アーティスト等、地域連携先は多く

(応募団体) 有している。

- (検 討 員) ユースステーションにおける居場所づくりというのをどのように考えているか。
- (応募団体) 居場所づくりにおいては、一番大事なところは、若者世代のニーズをいかに反映させるかだと考えている。そういう意味では、我々は二十代で利用者の世代と近いと、対面でのコミュニケーションにより彼らの意見を得やすいと考えている。ユースステーションを見学した際に、試験前に、普段開放してない会議室まで開放していることを確認して、利用者数に比して施設が狭いと感じた。試験時等で黒崎のユースステーションのキャパが足りないときには、弊社が経営しているカフェを使っていただけたらと思う。現管理者がイオンと提携してバンドバトルを行っているように、山田緑地で大きなイベントもできるので、街全体を活用して、いろいろな形の居場所を作っていこうと考えている。
- (検 討 員) 今回3社で共同事業体を構成するが、本市又は他の自治体で3社共同での指定管理実績があるか。もし仮に初めてだったときにどのような会社での連携工夫を取りながら事業を進めていくか。
- (応募団体) 3社で共同事業体を構成するのは今回が初めてである。構成団体間では、事業経営を複数年にわたって行っている。
- (検 討 員) ユースステーションの人員配置が足りるのかなという印象がある。イベントや事業実施の際に、人手が不足する場合はどのように対応されるのか。委託されるのかとか、もしくは新規雇用を行うのかと考えてよいのか。
- (応募団体) 急ぎょ足りない時は、構成団体の事業所から派遣するように考えている。
- (検 討 員) 現在は、若い方々を中心に動かれているということだが、高齢者や障害者の雇用促進も求められている。人材確保をどういうふうに考えているか伺いたい。
- (応募団体) 雇用に関しては、オープンにしたいと考えている。基本的に年齢制限は考えていない。逆に、年齢が高い方が経験や考えがしっかりしているととらえている。従って、雇用に当たっては、運営がしっかり入って、世代間の意見を聴き取り、解釈してあげることで世代間の差はなくなるのかなと考えている。積極的にいろんな世代を雇用したいと考えている。

【株式会社日本施設協会】

- ・ 提案概要の説明
- ・ 質疑応答

- (検 討 員) プレゼンの中で、ユースステーションの利用者はどちらかというと、できる子という印象があるとのことであったが、様々な人に利用してもらうための具体的な手だてを考えていけば教えてほしい。どうしても部活動は指導するものと、指導される者の間でいろんな問題が出てくると思うが、何かトラブルあった時の対応について伺いたい。
- (応募団体) 様々な分野の方々から、この分野では協力できるという、関心表明書をいただいている。そういった各分野のエキスパートを講師やアドバイザーにな

っていただき、利用者のニーズとマッチングさせて、部活なり、事業なりをくつつけていき、広げていきたいと考えている。また、ミクニスタジアムの運営の際に、フリー運営ミーティングという活動を行って成果を上げている。ユースステーションにおいても、利用者のやりたいことを施設の施策に反映させる場として機能させたい。また、武蔵野プレイス等の施策も参考にしていきたい。

(検 討 員) 武蔵野プレイスからは、どのようにして施設運営のノウハウを得ようとしているか。

(応募団体) 武蔵野プレイスは図書館という扱いになっており、私も図書館長を歴任している関係で、全国の図書館業界の繋がりの中で武蔵野プレイスの館長と面識があるため、そちらからのノウハウの取得を検討している。

(検 討 員) 所長候補の雇用形態はどのような形を考えているか。委託か。

(応募団体) 正社員としての雇用である。

(検 討 員) ユースステーションの人員が不足した場合の対応策について伺いたい。

(応募団体) もし指定管理が当社に変わった場合、今現在活躍をしているスタッフの方で、弊社への移籍をしていただくというのが第1である。

そして、それ以外、どうしても例えば足りないという場合は一般に広く募集をしていくが、図書館、ミクニスタジアムで、雇用している人材がいるので、仮に不足した場合でも、すぐに補充できる。

また毎週、オンラインで全施設の管理職が懸案事項等を共有する事務会議を行っているので、すぐさま問題の解決に対応が可能である。

(検 討 員) 部活など新しい事業を考えられていると思うが、既存の活動そのものをどうするかを伺いたい。

(応募団体) 今の利用者でニーズがあるものについては、続けていきたいと考えている。

(検 討 員) 自動販売機は置かずに、カフェ部がカフェを運営するとの説明があった。もし成立しない場合はどうするのか。カフェは、食品衛生管理者資格が必要だと思うがユースステーションで提供は可能か。

(応募団体) カフェ部が成立するまでの間は、飲料が必要な利用者は、コムシティとか黒崎商店街で購入してもらえれば良いと考えている。施設の方に必要な設備があれば可能であると考えている。

(検 討 員) 居場所についてどのように考えているか伺いたい。

(応募団体) 基本的に、人と触れ合いたいけど触れ合えないという若者たちの心理をどのようにつかむかということが重要だと考えている。居場所に行った時に、何の情報もない、自分がそこで触れる形の施設になっていない場合だと困る。例えば、進路についての情報があるとか、サードプレイスとして使いたい人のための講座が用意してあるというように、居場所になる施策をちゃんと用意するということが重要だと思う。サードプレイスだから来ていいよと言われて来たけど何もなかったでは、サードプレイスになれない。その点でも、武蔵野プレイスはものすごく勉強する対象になる。

○ 検討員は、各自得点を記入したものを発表。その後、検討員全員で意見交換

(検討員) ユースミライ北九州共同事業体は、新しいものを組み込むところは、一番面白いと思う。

里山を考える会は、学校と連携して、きちんとその学校のニーズに対応して、足りないものを補完していくみたいな視点が面白いと思う。

日本施設協会が、居場所というものの対して理解が高いと感じた。

(検討員) 里山を考える会は、イベント偏重になってきていないかなというのがちょっと不安である。

ユースミライ北九州共同事業体の方々の考えというのは、今の若い人たちにとって親和性があると思うので、新しいものが生まれて活性化しそうな予感はある。しかしながら、実現可能性について不安があるので、他の自治体でも良いから、今回の共同事業体の実績を見てみたいと思う。

日本施設協会は、図書館などをやっているから手堅いが、内容がフリースペースを作るとか、部活の子にカフェをさせるとか、リスクがあるように感じる。

(検討員) 里山を考える会は、高校との連携がうまくとれていると感じる。ユースミライ北九州共同事業体の提案は面白いとは思いますが、3社が実際運営になった時に、若い人が中心なので、うまく調整や連携がとれるか不安がある。

日本施設協会からは、ユースステーション内の若者の活動の場として、部活という提案があった。いろんな価値観がある子がいて、学校の中で人間関係ができている中でも、揉めることがあるので、部活制度の提案に難しい側面もあると思う。

里山を考える会は、収益も上がってきているというところで、安定感はあると思う。ただ、基本に立ち返って、若者たちの居場所づくりっていうところをもうちょっと大切にすることでもしてもらえたら良いと思う。

(検討員) ユースミライ北九州共同事業体については、既存のものを変えるときには、若者たちのパワーって必要だと思うが、状況を俯瞰して落ち着いてみる人材が必要だと感じる。年齢層の幅があれば、このパワーを活かせると感じる。

日本施設協会は、図書館、ミクニスタジアムの運営を手がけているというところもあって施設の運営に安定感がある。ただ、部活といった、何かやるための理念は尊重したいが、若者たちが、何かを自分たちから始めることがすごく難しいことを現場で感じている。そして、それをつなげていくとなった時に、どのようにサポートできるかが分からなかった。

○ 各検討員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各団体の評価レベルを決定

- 事務局は各団体の合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

〔総合的な所見〕

ユースミライ北九州共同事業体は、ユースステーションの運営実績はないが、代表団体が全国的な施設運営の実績を有する企業であり、十分な適性が見込める。特に、キャリア支援といった実績に基づいたプログラムの提案内容が、ユースステーションがメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

株式会社日本施設協会は、ユースステーションの運営実績はないが、北九州市において小倉南図書館の指定管理をはじめ、ひびしんホール、ミクニワールドスタジアムの受託・運営を行っており、十分な適性が見込める。特に、図書館運営のノウハウが活かされたサードプレイスとしての居場所づくりとの提案内容が、ユースステーションがメインターゲットとしている中・高校生とマッチしており、非常に魅力的で評価できる。

一方で、特定非営利活動法人里山を考える会は、現指定管理者であるユースの未来共同事業体の代表団体であり、これまでの実績から、安定した運営基盤を有していることが評価でき、また、中高生の探求事業、キャリア支援事業というキーワードで幅広い年齢層の受け入れを目指す工夫も見られた。

最終的には、提案内容について、利用者の成長を促すことに着目した理念や、プログラムの魅力とその開発への積極的な試みの点で、両者の評価に差があると判断した。

以上により、検討会としては特定非営利活動法人里山を考える会が指定管理者として相応しいと結論づけた。

- 事務局から、今後の指定管理者選定に関するスケジュールなどの説明を行い、検討会を終了

令和7年度12月補正予算総括表

○議案第185号「令和7年度 北九州市一般会計補正予算（第4号）」のうち子ども家庭局所管分

【歳出補正】

(単位：千円)

款項目	補正内容	補正前の額	補正額	補正後の額
4・1・1	子ども家庭職員費	5,013,991	352,140	5,366,131
	【概要】 令和7年度子ども家庭職員費の決算見込額に基づき、増額補正を行うもの。	5,013,991	352,140	5,366,131
4・2・2	子ども家庭支援費	60,751,159	292,741	61,043,900
	放課後児童クラブ利用者支援事業	27,935	741	28,676
	身近な子育てネットワーク構築推進事業			
	【概要】 令和7年度会計年度任用職員報酬等の決算見込額に基づき、増額補正を行うもの。	19,315,270	287,000	19,602,270
	児童手当			
	【概要】 高校生年代（18歳年度末）までの児童を養育している父母等を対象に支給する手当について、令和6年10月の第3子における制度拡充による対象者数の増加に伴う経費を増額補正するもの。	10,045	5,000	15,045
	子ども食堂開設支援事業			
4・2・3	【概要】 物価高の影響を受ける子どもたちに対して、子ども食堂を通じた支援に要する経費を増額補正するもの。	6,409,517	152,120	6,561,637
	母子保健医療費			
	子ども医療費支給事業	3,217,347	120	3,217,467
	【概要】 令和7年度会計年度任用職員報酬等の決算見込額に基づき、増額補正を行うもの。			
	育ちのはじまりサポート事業	147,400	22,000	169,400
	【概要】 出産後1年を経過しない保護者・乳幼児に対する育児相談や健康管理など心身のケアや育児サポート等の対象者数の増加に伴う経費を増額補正するもの。			
	妊婦のための支援給付	634,958	130,000	764,958
	【概要】 妊婦の産前産後期間における身体的・精神的・経済的負担を軽減するための給付金の対象者数の増加に伴う経費を増額補正するもの。			
合 計			797,001	

【歳入補正】

款項目	補正内容	補正前の額	補正額	補正後の額
18・1・2	子ども家庭費国庫負担金	33,624,394	253,511	33,877,905
	児童手当	15,642,636	253,511	15,896,147
18・2・3	子ども家庭費国庫補助金	3,684,787	141,000	3,825,787
	産後ケア事業費	28,373	11,000	39,373
	妊婦のための支援給付交付金	560,000	130,000	690,000
19・1・2	子ども家庭費県負担金	8,865,897	16,745	8,882,642
	児童手当	8,865,897	16,745	8,882,642
19・2・3	子ども家庭費県補助金	2,997,493	5,500	3,002,993
	ママと赤ちゃんのための産後ケア利用促進事業費	14,186	5,500	19,686
24・6・4	雑入	174,771	1,320	176,091
	私用光熱水使用料等	10	1,320	1,330
合 計			418,076	

令和7年度12月補正（追加分）予算総括表

○議案第192号「令和7年度 北九州市一般会計補正予算（第5号）」のうち子ども家庭局所管分

【歳出補正】

（単位：千円）

款項目	補正内容	補正前の額	補正額	補正後の額
4・2・2	子ども家庭支援費	61,043,900	2,900,000	63,943,900
	物価高対応子育て応援手当	0	2,900,000	2,900,000
	【概要】 国の総合経済対策において、物価高騰等に直面する子育て世帯に対し、児童1人あたり一律2万円の「物価高対応子育て応援手当」が盛り込まれたため、給付に要する経費を計上するもの。			
合 計			2,900,000	

【歳入補正】

款項目	補正内容	補正前の額	補正額	補正後の額
18・2・3	子ども家庭費国庫補助金	3,825,787	2,900,000	6,725,787
	物価高対応子育て応援手当	0	2,900,000	2,900,000
合 計			2,900,000	

【繰越明許費】

款項目	事業名	繰越額	繰越理由
4・2・2	物価高対応子育て応援手当	500,000	適正な事業期間を確保できないため
合 計		500,000	